

○ 本校の概要

- 本校の規模 全8学級 児童数217名(9月1日現在)
- 教育目標 友達を大切にすることも 運動で体をきたえる子ども 本気で学ぶ子ども よく聞き話せる子ども
- 校内研究 研究主題 自分の考えを書くことで伝えられる子ども ~国語科の学習を通して~

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄	
								評価 人数	
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々のコミュニケーション能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	教員向けアンケートで「プログラミング学習を行っている」「ICT機器を有効活用している」と回答した教員の割合	4: 90%以上	・外国語教育について [取組] ○英語を母国語とする外国語教育指導員とともに授業を行い、ネイティブの英語に直接触れ、国際社会におけるコミュニケーション能力の素地を養う機会にすることができた。 [改善策] ●高学年では外国語の教科化にもない、より適切な評価の必要性が出てきた。今後は担任が評価の観点を明確にし、児童の実態を把握しながら授業を進めていくようにする。 ・ICT機器の活用とプログラミング教育について [取組] ○各学級でタブレットや電子黒板、書画カメラを利用し、視覚的な支援や児童の作品の共有に役立てた。 ○一人一台タブレットを使用し、調べ学習や作品作りなど児童が積極的に学習に参加できる環境を設定した。 ○ICTサポーターを有効活用し、プログラミングの思考を身に付けさせるための指導を行った。 [改善策] ●ICTサポーターを来年度も有効活用し、校内のICT機器の活用率を継続する。 ●一人一台タブレット端末貸与が開始(クロームブック)。今後の家庭学習での活用を視野に入れた事前指導を十分に行う必要がある。	A 11	・タブレットの活用に関しては今後注目します。ICT教育の早期導入活用により、本校教員の熱意が見られました。また、児童も授業に集中する姿が見られました。 ・公開授業からもICT機器の活用の取組を感じました。 ・クロームブックの活用が楽しみです。 ・今年度は学校公開でタブレットを活用した授業の参観はできませんでしたが、昨年度からタブレットを使用しての学習の姿があり、子供たちも使いこなしていました。 ・タブレットを有効活用することによって学習の定着を図ることができると思います。 ・先を見据えた学習でとても良いと感じています。 ・端末の持ち帰りについては、各家庭の状況、環境に対する把握をしっかりとお願いします。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのみのづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4		3: 80%以上			
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	4		4			
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4		2: 70%以上			
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4		1: 70%未満			
		問題を解決する方法や手順を論理的に考えていく「プログラミング的思考」を身に付けさせる授業を実施する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4					
児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまづきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	校内研究に関する児童アンケートで「書くことが楽しい」と回答した児童の割合	4: 90%以上	[取組] ○ステップ学習チェックシートを活用し、算数の到達度を児童や保護者に知らせることで各自の課題を把握できるようにした。 [改善策] ●単元ごとの課題を把握することはできていないので、各自の課題克服のための基礎問題や応用問題を具体的に提示する。 [取組] ○3年生以上の児童を対象に、放課後補習を毎週実施した。多くの児童が申し込み、参加率も高かった。土曜補習は自由参加という形で実施している。 [改善策] ●保護者に対して児童の補習への参加を積極的に呼びかけ、学力向上につながるようにする。 [取組] ○校内研究では書く活動を中心に、全クラスで研究授業に取り組んだ。 [改善策] ●自分の思いや考えを適切に表現できるよう、今後もより一層の言語活動の充実を図る。	A 9	・掲示されている児童の作品を見ましたが、1年生においてもしっかりと書かれています。コロナウイルスによる困難な状況下、教員による熱意により、授業時間減少をカバーできていると評価されます。 ・書く力をつけるためには読書が大事です。何か図書館がお手伝いできればと思います。 ・3年生以上で児童で「今日は補習だったよ」と話があり、放課後も学習に積極的に取り組んでいる姿が伺えます。 ・これからは外国語が大事になってくると思いますが、国語の理解がもっとも重要だと思います。 ・書くことで自分の思い、考えをまとも表現する力が付いていくことに繋がっていくと思います。 ・積極的に何にに対しても取り組んでいく精神を育てて頂きたいです。	
	算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2~3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	3		3: 80%以上				
	学習指導講師等による算数の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以上の教員が働きかけた。	4		2: 70%以上				
	授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4		1: 70%未満				
プラン3 豊かな心の育成	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	児童アンケートで「友だち、先生、近所の人にあいさつをします」の項目における児童の達成率の平均値	4: 90%以上	[取組] ○小中一貫教育の日を設け、学習面、生活面での情報交換を行った。また、新入生生徒の情報交換会したり、学校見学等を行った。6年生の進学への不安を解消したり、期待をもたせたりした。 [改善策] ●今後、更に意見交換会を学期に1~2回実施し、教育活動に生かしていく。 [取組] ○道徳地区公開講座では、講師を招いて、意見交換、指導助言をいただいた。 [改善策] ●道徳指導について更に理解を深められるよう、年間1~2回講師を招き授業観察、指導講評をいただく。また、道徳主任を中心に、より適切な評価や記述ができるよう、学ぶ機会を設定する。 [取組] ○ふれあい月間期間中だけでなく、教職員がいじめ未然防止へのアンテナを張り児童観察に努めた。生活指導夕会では、生活指導上課題のある児童について共有し、組織的に対応した。また、近隣の生活指導上の課題を周知した。 [改善策] ●発達段階に応じて児童それぞれがもつ悩みを職員が十分に理解して対応する。また、SC等の関係機関と連携を図り、組織として対応して早期支援、解決に努める。	A 11	・登校時に仲良く歩いている姿に指導の成果を見ました。児童は登下校時においても顔を知っている大人に対してきちんと挨拶を行っていました。また、下級生を見守り、かばう様子を見かけることがあり、指導の確かさを見ます。 ・児童は元気いっぱいあいさつをしてくれました。 ・楽しそうな登下校の風景はなごみます。 ・気になる児童について学校の先生とお話して共有することができました。 ・あいさつの推奨は大切だと思います。 ・コロナ禍で家庭事情も色々あり、対応も難しいと思います。早期支援を保育園としても努めていきます。 ・日頃より挨拶できる児童と接しています。今後共、組織的に対応頂きたいです。	
	道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3		3: 80%以上				
	学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的に対応できた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4		2: 70%以上				
	学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的に対応できた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4		1: 70%未満				
	問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておこなった会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	4						
プラン4 体力の向上と健康の増進	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	生活アンケートで「運動することや外で遊ぶことが楽しい」と回答した児童の割合	4: 90%以上	[取組] ○チェックカードを用いて実施。保健便りや掲示物を通して児童や家庭に呼び掛けた。 ○栄養士による「クハクハ」便りの発信や給食指導、家庭科等で指導を行った。 ○感染症予防策を講じた種目での運動会を実施。休み時間も教員が一緒に外に出て積極的に児童と外遊びを行った。○校長や生活指導主任による指導を全校朝会で適宜行った。 [改善策] ●児童委員会活動や保護者会、ホームページ等で啓発し、家庭と連携を図りながら本校の課題に取り組む。 ●体験活動を通じた食育に取り組む。 ●本校の特色を生かした一学級一取組をさらに一歩系統性をもたせて実施し体力向上を図る。 ●引き続き、感染防止策を徹底しながら工夫し、活動の充実を図る。	A 9	・一部児童にゲームにより朝の起床時に睡眠不足があると聞きます。また、この件に対する指導もされていると聞きます。感染症対策(マスク・手洗い・うがい)の徹底の上、運動をしてみました。 ・今後、館としても協力していきます。 ・免疫力を高める意味でも体力づくりは大事です。伸び伸びと外遊びをしてほしいです。 ・休み時間に先生方が子供たちと遊んでいる姿が多く見られました。授業で学んだ鉄棒や縄跳びを放課後にも一生懸命に練習していました。 ・最近では下校後にゲームをしている児童が多いと聞きます。学校での運動は重要だと思います。 ・運動面では、コロナ禍でなかなか十分な対応が難しいと思います。 ・引き続き感染予防策を講じ、充実した活動の実施をお願いします。	
	給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4		3: 80%以上				
	体育的行事、授業、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4		2: 70%以上				
	感染症予防のために、「手洗い、うがい」の励行とともに、三密を避ける工夫、人と人との関わり方の指導等を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4		1: 70%未満				
プラン5 魅力ある教育環境づくり	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	学校公開時の保護者アンケートによる授業の肯定評価の平均値「子供たち一人一人の活動が充実していた」	4: 95%以上	[取組] ○コロナ禍で授業公開が実施できなかったが、道徳授業、体育・健康授業は全学級で取組み、書面にて公開した。 ○全クラスの研究授業を実施し、OJTを踏まえた協議会を設けた。 ○研修会参加後の伝達講習の場を設け、教員全体への周知徹底を図った。 ○校内委員会は各学年1回以上、月1回程度実施し、児童理解や支援体制の強化に努めた。また、必要に応じて臨時校内委員会を開き、迅速に特別支援教室への入室ができるよう取り組んだ。 ○今年度は運動会、音楽発表会のみを学校公開となったが、「活動の充実」についての肯定的アンケート結果がどちらも100%で、運動会が62%、音楽発表会が77%が「よくあてはまる」と回答した。 [改善策] ●学校公開の持ち方を工夫し、少しでも地域や保護者に学校の教育活動の情報を提供していけるよう努める。 ●児童一人一人の教育的ニーズを把握し、保護者、地域と連携を図り支援体制を強化する。	A 10	・コロナ禍で学校内外での活動の制約のある中、PTAによるハロウィンパーティーや教員による鎌倉での校外学習の企画は児童の心に残っているようです。地域教育連絡協議会委員として授業を垣間見て、充実を見てもらいました。 ・教育活動についてしっかりと地域へ情報提供しています。 ・コロナ感染への対策は大変だと思いますが、引き続きよろしくお願いいたします。 ・感染症対策を実施しながら、運動会や音楽発表会を行うことができました。先生方の工夫や配慮があったからこそだと強く思います。 ・静止画や動画も含めて公開できるといいと思います。 ・学校公開に参加でき、たくさんのお話を聞く機会になりました。 ・コロナ禍の中、十分な活動が難しいところであるとありますが、工夫をもって独自の教育活動に期待しています。	
	授業改善セミナー等の研修成果を生かし、管理職、主幹、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	4		3: 85%以上				
	各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4		2: 75%以上				
	校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:1回以上行った。 3:学期に2~3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4		1: 75%未満				
プラン6 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:1回以上更新した。 3:学期に2~3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	保護者アンケートによる13項目の肯定評価の平均値	4: 95%以上	[取組] ○教育目標・学校経営方針・学校評価などの基本情報のほか、広報のHP担当が週始末と終わりに、子どもの様子などをホームページで公開、更新することにより、情報発信を行ってきた。 ○感染症対策を十分に取って、地域教育連絡協議会の方々に、音楽発表会と道徳授業地区公開講座で教育活動や児童の様子などの情報を提供することができた。 ○昨年度の交流や支援は、感染症予防の点から実施できなかった。感染症が収束したら、ふれあい給食、七輪体験、読み聞かせなど地域の方をゲストティーチャーとしてお招きして、地域の力を生かした教育活動を行いたい。 [改善策] ●学校公開が実施できない場合は、今年度と同様に、HP等を有効活用して情報の発信、更新を随時行っていく。 ●感染症対策で実施できなかった取組は、感染症が収束後は取り組めるよう準備していく。	A 10	・「東浦便り」「ホームページ」等を十分に活用し、地域・家庭とも連携がとれています。コロナ状況下の努力を見ます。特にホームページは後述で校内の児童の様子が理解できました。 ・実際に参観することの少ない中で、評価することは難しいと思います。学校教職員の方々の評価に納得するだけなのではないかと思っております。どうか事件、事故が起きませんようご配慮いただければと願っております。 ・情報の共有が大事ですね。 ・ホームページが定期的に更新されていることを知らなかったもので、今後は見ていきたいです。 ・学校公開は、一部でもいいので動画でHPに公開できるいいと思います。 ・保護者の方は、「ホームページの公開が安心されることも多々あると思います」 ・例年、保護者評価が高いことについて地域としても評価するところですが、今後共引き続き頑張ってください。応援しています。	
	地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	4		3: 85%以上				
	学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4:学期に2~3回行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	3		2: 75%以上				

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
 ○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。
 ○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。